

2024.2.15



地域日本語支援ニュース こだま 第 440 号

ともに生きる
～地域で、日本で、そして世界で～



★—— メールマガジンをお読みいただき、ありがとうございます。——★
【地域日本語支援ニュース 「こだま」】は、日本語教育に関する事業を全国で行っている公益社団法人国際日本語普及協会（AJALT）発行のメールマガジンです。各地域で在住外国人に対する日本語・生活支援に携わっている方々に役立つ情報の共有を目指していきます。

★—— 皆様からのご意見、ご感想をお待ちしています。——★

編集部：<https://www.ajalt.org/local/soudan/contact.html>

■ともに生きる：ミャンマーより■

谷口良雄さんは 20 年以上国内の日本語教室でボランティア活動を継続し、その間には海外の日本語学校にも勤務されてきました。昨年 7 月からは、ミャンマーの日本語学校で教えています。その日本語学校で学習を終えたミャンマーの若者たちは日本全国で働いています。

2021 年 2 月のクーデター以降今も厳しい状況が続くミャンマーから、日本語学習に励む青年の様子を 2 度にわたってレポートしていただきました。

日本へ向かう直前の日本語学習の現場から

ミャンマー在住 日本語学校勤務 谷口良雄

～ミャンマーだより 夏～

◆携帯電話の灯りで学習

停電が毎日、8～9時間もあるミャンマーで、
停電時はエアコンも扇風機も止まり、汗だくの勉強。
スクールが始まると授業は中断し、大急ぎで洗濯物を屋内に取り込む。
暑いので開けっぱなしのドアや窓から入ってくる激しい雨の音で
時折授業が中断される。
そして夜は携帯の灯りを頼りに夜 10 時ごろまで教室で
日本語を勉強していた彼ら。
そんな苦労を顔には表さなかった彼ら。
規定の学習を終えて、14 名が日本へ旅立った。

◆日本を選んだ理由

仕事先は全国に及び、障がい者施設、デイサービスセンターの介護職、
さらには、精肉工場、食品工場など。

いずれも、日本の若者の働き手が不足している職場。

皆に日本を選んだ理由を尋ねると、

「安全な国だから」

「日本人は親切だから」

「日本が好きだから」

「アニメで日本に興味を持ったから」

などが多い。

タイや中国の国境に近い農村出身が多い彼ら。

「両親、兄弟姉妹にお金を送って生活を支えたい」

は皆共通の思い。

2021 年 2 月以降多いのが先行き不安のため、

大学を中退したという若者。

そのため、他の国と比べると、

(中国、ベトナム、タイ、フィリピン、インドネシアなど)

日本に働きに行く若者の学歴は大学中退者が多い。

～ミャンマーだより 冬～

◆ミャンマーから日本へ

多くの大学生が卒業後の進路に絶望して中退したり、

大学進学を諦めた若者が急増しました。

できうるならば、国外に活路を見出そうという人が多くなっています。

2021 年 2 月以降、日本語を学ぶ人が多くなり、

今年7月の JLPT の応募者は昨年12月の2倍、
10万人に達したと日本の新聞の報道です。

そのため、今

日本語、韓国語、タイ語、中国語、英語などを学ぶ学習者には、
高校生、大学生や大学院生、中退生などが多くなり、
その多くが国外へ行くケースが増えています。

日本に向かう技能実習生や特定技能生の中に、
他国には見られない高学歴の学習者が多いのが
ミャンマーの特徴と言えるでしょうか。

◆心からのエール

そんな先行きが不透明で不安な国で生きる人たちですが、
明るく陽気な彼らは、

1日1日を精一杯生きて、

エネルギーを感じさせてくれたのが、

23～24日の「クリスマスキャロリング」でした。

昨日24日のクリスマスイブでは、

夜8時から11時ごろまで近所の家庭を周って、

玄関先でクリスマスソングを合唱しました。

彼らに同行した私も、若さと明るさとエネルギーをもらいました。

そして、1日も早くこの国が変わるように願うとともに、

彼らに心からのエールを送りたい気持ちになりました。
